

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 4 部門第 1 区分
 【発行日】平成 17 年 9 月 8 日 (2005.9.8)

【公開番号】特開 2003-278218 (P2003-278218A)
 【公開日】平成 15 年 10 月 2 日 (2003.10.2)
 【出願番号】特願 2002-84419 (P2002-84419)
 【国際特許分類第 7 版】

E 0 3 D 9/00

E 0 3 D 9/08

【F I】

E 0 3 D 9/00 B

E 0 3 D 9/08 B

E 0 3 D 9/08 L

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 3 月 18 日 (2005.3.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】衛生洗浄装置の芳香制御方法

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

使用者の有無を検知する検知装置と、芳香手段を備えた衛生洗浄装置において、前記検知手段が使用者の有無を検知することにより前記芳香手段の芳香量の大小を制御することを特徴とする衛生洗浄装置の芳香制御方法。

【請求項 2】

便座に着座及び離座した使用者の検知手段と、芳香手段を備えた衛生洗浄装置において、前記検知手段による便座に着座及び離座した使用者の検知により、前記芳香手段の芳香量を制御することを特徴とする衛生洗浄装置の芳香制御方法。

【請求項 3】

前記検知手段が前記便座に着座していた使用者の離座を検知することにより、前記芳香手段の芳香量を大きくすることを特徴とする請求項 2 記載の衛生洗浄装置の制御方法。

【請求項 4】

便器の前に立った使用者の有無の検知手段と、芳香手段を備えた衛生洗浄装置において、前記検知手段による便器の前に立った使用者の有無の検知により、前記芳香手段の芳香量を制御することを特徴とする衛生洗浄装置の芳香制御方法。

【請求項 5】

前記検知手段が便器の前に立っていた使用者有の状態から使用者無の状態への移行を検知することにより、前記芳香手段の芳香量を大きくすることを特徴とする請求項 4 記載の衛生洗浄装置の芳香制御方法。

【請求項 6】

トイレへの入室及び退室を検知する検知手段と、芳香手段を備えた衛生洗浄装置におい

て、前記検知手段によるトイレへの使用者の入室及び退室の検知により、前記芳香手段の芳香量を制御することを特徴とする衛生洗浄装置の芳香制御方法。

【請求項 7】

前記検知手段が前記使用者の退室を検知することにより、前記芳香手段の芳香量を大きくすることを特徴とする請求項 6 記載の衛生洗浄装置の芳香制御方法。

【請求項 8】

便座又は便蓋の開閉の検知手段と、芳香手段を備えた衛生洗浄装置において、便座又は便蓋の開閉の検知により、前記芳香手段の芳香量を制御することを特徴とする衛生洗浄装置の芳香制御方法。

【請求項 9】

臭気を検出する臭気検出手段と、芳香手段を備えた衛生洗浄装置において、臭気検出手段に基づき、前記芳香手段の芳香量を制御することを特徴とする衛生洗浄装置の芳香制御方法。

【請求項 10】

局部洗浄手段又は温風乾燥手段と、芳香手段を備えた衛生洗浄装置において、前記局部洗浄手段又は前記温風乾燥手段の操作により、前記芳香手段の芳香量を制御することを特徴とする衛生洗浄装置の芳香制御方法。

【請求項 11】

便器に、便器周辺の臭気を脱臭する脱臭手段と、芳香手段を設けた衛生洗浄装置において、前記脱臭手段の操作又は動作により、前記芳香手段の芳香量を制御することを特徴とする衛生洗浄装置の芳香制御方法。

【請求項 12】

局部洗浄手段又は温風乾燥手段と、前記局部洗浄手段又は前記温風乾燥手段の機能の動作を停止する手段と、芳香手段を備えた衛生洗浄装置において、前記機能の動作を停止する操作により、前記芳香手段の芳香量を制御することを特徴とする衛生洗浄装置の芳香制御方法。

【請求項 13】

便器洗浄手段と、芳香手段を備えた衛生洗浄装置において、前記便器洗浄手段の操作により、前記芳香手段の芳香量を制御することを特徴とする衛生洗浄装置の芳香制御方法。

【請求項 14】

前記芳香量は、芳香を衛生洗浄装置外に排出する送風機の回転数を制御することにより制御することを特徴とする請求項 1 から 13 のいずれか 1 項に記載の衛生洗浄装置の芳香制御方法。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

【課題を解決するための手段】

前記目的に沿う第 1 の発明に係る衛生洗浄装置の制御方法は、使用者の有無を検知する検知装置と、芳香手段を備えた衛生洗浄装置において、前記検知手段が使用者の有無を検知することにより前記芳香手段の芳香量の大小を制御される。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

前記目的に沿う第 2 の発明に係る衛生洗浄装置の制御方法は、便座に着座及び離座した

使用者の検知手段と、芳香手段を備えた衛生洗浄装置において、便座に着座及び離座した使用者の検知により、前記衛生洗浄装置に搭載された芳香手段の芳香量が制御される。

これにより、使用者の便座の使用タイミング、すなわち臭気発生タイミングと、芳香手段の芳香量を変化させるタイミングを容易に一致させることが出来、使用者又は次に別の使用者が便室に入った時に、臭気による不快感を与えることが無くなり、使用者又は次に別の使用者にとって芳香濃度が濃すぎず、薄すぎず、ムラの無い快適な芳香が行える。また便座の離座により、芳香手段の芳香量を変化させる方法などを用いれば、残臭に対する迅速な芳香が出来るなど、さらに効率良く芳香が行える。なお検知時間の長さに応じて、芳香手段の芳香量を変化させれば、さらに実使用に合った効果的な芳香が行える。

また、過度の芳香などによる、無駄な芳香剤の使用を抑えることが出来る。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

前記目的に沿う第3の発明に係る衛生洗浄装置の制御方法は、便器の前に立った使用者の有無の検知手段と、芳香手段を備えた衛生洗浄装置において、便器の前に立った使用者の有無の検知により、前記衛生洗浄装置に搭載された芳香手段の芳香量が制御される。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

前記目的に沿う第4の発明に係る衛生洗浄装置の制御方法は、トイレへの入室及び退室を検知する手段と、芳香手段を備えた衛生洗浄装置において、トイレへの使用者の入室及び退室の検知により、前記衛生洗浄装置に搭載された芳香手段の芳香量が制御される。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

これにより、使用者の便室使用のタイミング、すなわち臭気発生タイミングと、芳香手段の芳香量を変化させるタイミングを容易に一致させることが出来、使用者又は次に別の使用者が便室に入った時に、臭気による不快感を与えることが無くなり、使用者又は次に別の使用者にとって芳香濃度が濃すぎず、薄すぎず、ムラの無い快適な芳香が行える。また使用者の便室からの退室検知により、芳香手段の芳香量を変化させる方法などを用いれば、残臭に対する迅速な芳香が出来るなど、さらに効率良く芳香が行える。なお入室から退室までの時間の長さに応じて、芳香手段の芳香量を変化させれば、さらに実使用に合った効果的な芳香が行える。

また過度の芳香などによる、無駄な芳香剤の使用を抑えることが出来る。

また便座を使用しないで男性が小用をするために、便器の前に立ったときでも、芳香手段の芳香量を変化することが出来る。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 0 】

なお、上記の発明について、前記検知手段が使用者の離座、便器前からの退出、退室を検知することにより、前記芳香手段の芳香量を大きくすることができる。

【 手 続 補 正 9 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 1 1

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 1 1 】

前記目的に沿う第 5 の発明に係る衛生洗浄装置の制御方法は、便座又は便蓋の開閉の検知手段と、芳香手段を備えた衛生洗浄装置において、便座又は便蓋の開閉の検知により、前記衛生洗浄装置に搭載された芳香手段の芳香量が制御される。

【 手 続 補 正 1 0 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 1 4

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 1 4 】

前記目的に沿う第 6 の発明に係る衛生洗浄装置の制御方法は、臭気を検出出来る臭気検出手段と、芳香手段を備えた衛生洗浄装置において、臭気検出手段に基づき、前記衛生洗浄装置に搭載された芳香手段の芳香量が制御される。

これにより、臭気発生のタイミングと、芳香手段の芳香量を変化させるタイミングを容易に一致させることが出来、使用者又は次に別の使用者が便室に入った時に、臭気による不快感を与えることが無くなり、使用者又は次に別の使用者にとって芳香濃度が濃すぎず、薄すぎず、ムラの無い快適な芳香が行える。また臭気検出のレベルに応じて、芳香手段の芳香量を変化させる方法などを用いれば、さらに効率良く芳香が行える。

また過度の芳香などによる、無駄な芳香剤の使用を抑えることが出来る。

【 手 続 補 正 1 1 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 1 5

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 1 5 】

前記目的に沿う第 7 の発明に係る衛生洗浄装置の制御方法は、局部洗浄手段又は温風乾燥手段と、芳香手段を備えた衛生洗浄装置において、前記局部洗浄手段又は前記温風乾燥手段の操作により、前記衛生洗浄装置に搭載された芳香手段の芳香量が制御される。

【 手 続 補 正 1 2 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 1 7

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 1 7 】

前記目的に沿う第 8 の発明に係る衛生洗浄装置の制御方法は、便器に便器周辺の臭気を脱臭する脱臭手段と、芳香手段を備えた衛生洗浄装置において、前記脱臭手段の操作又は動作により、前記衛生洗浄装置に搭載された芳香手段の芳香量が制御される。

【 手 続 補 正 1 3 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 1 9

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 1 9 】

前記目的に沿う第 9 の発明に係る衛生洗浄装置の制御方法は、局部洗浄手段又は温風乾燥手段と、前記局部洗浄手段又は前記温風乾燥手段の機能の動作を停止する手段と、芳香手段を備えた衛生洗浄装置において、前記機能の動作を停止する操作により、前記衛生洗浄装置に搭載された芳香手段の芳香量が制御される。

これにより、局部洗浄手段や温風乾燥手段など衛生洗浄装置使用時の臭気発生タイミングと、芳香手段の芳香量を変化させるタイミングを容易に一致させることが出来、使用者又は次に別の使用者が便室に入った時に、臭気による不快感を与えることが無くなり、使用者又は次に別の使用者にとって芳香濃度が濃すぎず、薄すぎず、ムラの無い快適な芳香が行える。また局部洗浄手段又は温風乾燥手段の停止回数などに応じて、芳香手段の芳香量を変化させる方法などを用いれば、さらに効率良く芳香が行える。なお停止回数は、局部洗浄手段と温風乾燥手段の使用停止回数を組み合わせて、芳香手段の芳香量を変化させることにより、さらに効果的に芳香が行える。

【 手 続 補 正 1 4 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 2 1

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 2 1 】

前記目的に沿う第 1 0 の発明に係る衛生洗浄装置の制御方法は、便器の便器洗浄手段と、芳香手段を備えた衛生洗浄装置において、前記便器洗浄手段の操作により、前記衛生洗浄装置に搭載された芳香手段の芳香量が制御される。

これにより、便器が使用され臭気発生している状態と、芳香手段の芳香量を変化させるタイミングを容易に一致させることが出来、次に別の使用者が便室に入った時に、臭気による不快感を与えることが無くなる。

また過度の芳香などによる、無駄な芳香剤の使用を抑えることが出来る。

【 手 続 補 正 1 5 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 2 3

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 2 3 】

なお、芳香量を変更できる芳香用スイッチと、芳香手段を備えた衛生洗浄装置において、前記芳香スイッチの操作により、前記衛生洗浄装置に搭載された芳香手段の芳香量が制御されるようにしてもよい。

これにより、使用者の好みに合わせて、タイミング良く芳香することが可能となる。また使用者の任意で芳香量を変えることが出来るため、過度の芳香にならず、好みの芳香レベルを保つことが出来、無駄な芳香剤の使用を抑えることが出来る。

また、芳香手段と芳香手段の計時手段を備えた衛生洗浄装置において、前記芳香手段の動作時間は、前記計時手段により動作を制御される。

これにより、一定時間芳香させること又は芳香させないことが出来、便室を使用した時だけ芳香を一定時間行うことなどや、深夜など比較的使用されない時間帯は芳香をさせないなどの設定によりまで常時高濃度で芳香されることなどを防止し、無駄な芳香剤の使用を抑えることが出来る。

また、計時手段によりパターンの芳香動作時間の設定が出来るようになり、さらに芳香の快適性且つ使い勝手が向上する。

【 手 続 補 正 1 6 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 2 4

【 補 正 方 法 】 変 更

【補正の内容】

【0024】

さらに、芳香手段と芳香手段の計時手段且つ動作時間を変更させる変更手段を備えた衛生洗浄装置において、前記芳香手段の動作時間は、前記計時手段により動作すること、且つ動作時間を変更することが出来る。

【手続補正17】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0027

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0027】

さらにまた、芳香手段の計時手段且つ動作時間を変更させる変更手段を備えた、衛生洗浄装置において、前記芳香手段の動作時間は、前記計時手段により動作すること、且つ動作時間を変更することが出来る。

【手続補正18】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0028】

これにより、芳香を開始した時点から、一定時間芳香させること又は芳香させないことが出来、実用的且つ効率の良い芳香が行える。

【手続補正19】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0031】

なお、使用者が便器の使用を終了したと判定出来る場合から一定時間経過後に、芳香手段の芳香量を制御出来る。

これにより、便器使用終了後から一定時間経過後までの芳香量を多くしてオフディレー動作を行えるなど、次に別の使用者が便室に入った時に臭気による不快感を与えることが無くなる。また常時高濃度で芳香することを防止出来、過度の芳香など無駄な芳香剤の使用を抑えることが出来る。

【手続補正20】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0032

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0032】

さらに、芳香手段の動作時間又は芳香動作のオフディレー動作時間は、衛生洗浄装置の使用状況に応じて動作時間又はオフディレー動作時間が変化する。
ボタンの押された回数などでも良い。

また過度の芳香など、無駄な芳香剤の使用を抑えることが出来る。

【手続補正21】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0068

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0068】

【発明の効果】

本発明の衛生洗浄装置の芳香制御方法において、衛生洗浄便座またはトイレの使用にタイミングに併せ、芳香手段の芳香量を行うことが可能となり、使用者の便器使用のタイミング、すなわち臭気発生タイミングと、芳香手段の芳香量を変化させるタイミングを容易に一致させることが出来、使用者又は次に別の使用者が便室に入った時に、臭気による不快感を与えることが無くなり、使用者又は次に別の使用者にとって芳香濃度が濃すぎず、薄すぎず、ムラの無い快適且つ効率の良い芳香が行える。また使用者の非検知などにより、芳香手段の芳香量を変化させる方法などを用いれば、残臭に対する迅速な芳香が出来るなど、さらに効率良く芳香が行える。検知時間の長さに応じて、芳香手段の芳香量を変化させれば、さらに実使用に合った効果的な芳香が行える。